

美術科学習指導案

日 時 平成 17 年 12 月 15 日(木)第 5 校時
学 級 2 年 8 組 (男子 8 人女子 32 人計 40 人)
指 導 者 教 諭 久 保 孝 彰

1 題材 『美術館見聞録 Rome&Paris』(第 2 学年－西洋美術史)

2 題材について

本校美術科 2 年生は、1 年次に『構成』などの授業を通して基本的な造形表現について学習をしてきた。現在は、本人の希望や適性に応じた絵画や彫刻などの専門科目を選択し、各々についてより深く造形表現の学習をしている。さらに 3 年次では、西洋美術とのかかわりをもたせながら『日本美術史』を学習し、日本文化への理解を深めることができるようにしている。

本学科では、教育活動の一環として 2 年次の 12 月にローマとパリにある美術館を鑑賞して巡る西欧研修旅行が設定されており、全員必修の『西洋美術史』の一環として行われている。この研修では、現地で実際に作品を鑑賞することにより、作者の思いや展示してある美術館の雰囲気といったようなものまでも肌で感じ取ることができる。

本題材は、個々に体験した文化遺産や美術作品の美しさや良さなど生きた教材から学んだことを IT 機器を活用し、他者へ伝えることをねらいとしている。また、ルネサンス以降の芸術作品や芸術家の生い立ちを当時の思想や時代背景と重ね、学んできた美術史を整理する機会にもなっている。

本学級の生徒たちは、紹介する作品のほとんどが初めて見るものであり、熱心に観察したり、お互い感じたことを述べ合ったりしている。しかし、表面的な観察にとどまってしまうことが多く、より授業に深く関心をもっていけるよう「総合的な学習の時間」に、調べ学習とプレゼンテーションについての学習を行った。現在は授業で扱う芸術家について個々に調査し、美術史の授業の最初に発表するなどの指導の工夫をしているところである。そうした中で、自己表現の手段が主に制作であるために、口述発表による自己表現への苦手意識が見られ、読み上げるだけの発表だったり、説明する言葉が自分の言葉でなかったりするような発表も多いことが課題となっている。

そこで本題材では、生徒が調べたことや作品鑑賞を通しての感想などを口述だけでなく、情報機器を活用した発表をすることで、自分の考えを伝える補助的な役割としての IT 機器が有効なものであることを体験させていきたい。また、この体験を通して、制作の記録としての情報機器の活用や、作品の一部としての情報機器の活用といった複合的な表現に発展できるよう造形表現の幅を広げていけるようにしたい。

3 題材の学習目標

- (1) 自分の『見聞録』の発表原稿を IT 機器を活用しながら作成し、順序立てて分かりやすく説明することができる。
- (2) 発表から文化遺産や美術作品の美しさやよさをつかみ、自分なりに美的感覚や造形性を認識し、自分の制作姿勢に生かしていくことができる。
- (3) 発表者の説明の内容を理解し、自分なりに発表の要点をつかむことができる。

4 題材の評価規準

④	評価規準	「十分満足できる」と想定した生徒の状況	「努力を要する」と判断した生徒への手だて
ア 関心 ・意欲 ・態度	① 鑑賞のポイントを明確に把握し、作品についての事前調査が積極的にできる。	・図書館の書籍やインターネットを活用して、多様な情報を収集し、適切に取捨選択している。	・鑑賞の仕方について、具体的な例を提示する。 ・調査の手順について整理し、何が必要であるか確認していく。
	② 発表原稿を作成し、IT 機器の特性を最大限に活用して順序立てて発表することができる。	・見る側に立ったレイアウトができる。 ・時間配分を事前に把握するためのリハーサルをし、問題点を見付けることができる。	・作成方法についていくつか例を提示し、必ずできあがった原稿と IT 機器とのリハーサルをするよう助言する。
	③ 発表者の説明の要点をつかみながら聞くことができる。	・メモを取り、発表者の説明内容を理解しようと努めることができる。	・発表者のテーマ、目的の部分に留意するように助言する。
イ 鑑賞 の能力	① 研修から自分が強く感じた印象や思いを文面化できる。 ② 発表者の伝えたい思いを感じ取ることができる。 ③ 発表や鑑賞を通して、自分の制作に反映できるようになる。	・感じ取ったことを適切に文章や図でまとめることができる。 ・発表者の伝えたいポイントをつかみ、うなずいたりするなどの反応を示すことができる。 ・自分だったら、こうしてみたいということを述べるができる。	・箇条書きで自分の思いを書き出してみるように助言する。 ・伝えたいと思った点をメモしておくように助言する。 ・他の人の意見を参考にし、自分ならどう考えるか助言する。

5 指導計画（全4時間）

過程	主な学習活動	指導上の留意点	評価項目・評価方法	時間
第1次 (導入)	1 題材について理解する。 2 発表原稿の作成をする。	- 発表形態や発表内容について理解させる。 - 鑑賞・観察するポイントを説明し、確認させる。 - 発表のためにグループを七つ、つくらせる。 - ローマの美術館 - ピカソ美術館 - ロダン美術館 - ループル（1） - ループル（2） - オルセー美術館 - ポンピドゥー - 各グループで役割分担をし発表原稿を作成させる。	ア① 鑑賞のポイントを明確に把握し、作品についての事前調査が積極的に行われる。 (研修のしおり) イ① 研修から自分が強く感じた印象や思いを文面化できる。 (プレゼン企画書)	100分 (1・2)
第2次 (展開)	3 発表する。	グループごとに IT 機器を利用して発表をさせる。	ア② 発表原稿を作成し IT 機器の特性を最大限に活用して順序立てて発表することができる。(発表姿勢) ア③ 発表者の説明の要点をつかみながら聞くことができる。 (実習ノート) イ② 発表者の伝えたい思いを感じ取ることができる。 (実習ノート)	80分 (3・4)
第3次 (終末)	4 まとめ・評価をする。	各グループごとの発表について意見を述べ合う。	イ③ 発表や鑑賞を通して自分の制作に反映できるようになる。 (実習ノート)	15分 (4)

6 本時の実際（3／4）

(1) 本時の目標

- ① 西欧研修旅行の体験を視聴覚機器を活用しながら順序立てて分かりやすく説明することができる。
- ② 体験談発表を通して、ルネサンス以降の美術作品の美しさやよさをつかみ、美的感覚や造形性を認識することができる。
- ③ 発表者の説明の内容を理解し、自分なりに発表の要点をつかむことができる。

(2) 準備

教師：教科書、プレゼン企画書、パソコン、プロジェクタ、西洋美術史ファイル
 生徒：教科書、プレゼン企画書、実習ノート、発表用 CD-R、西洋美術史ファイル

(3) 授業の展開

過程	主な学習活動	時間・形態	指導上の留意点	備 考
導入	1 研修旅行のスライドをみる。 2 本時の学習目標と学習活動内容を知る。	6分 一斉	・旅行の様子をプロジェクタを利用してフィードバックさせ、学習への意欲を喚起する。 ・発表の順番や仕方、機器の扱いについての確認をさせる。	プロジェクタ パソコン LAN ケーブル 延長ケーブル 教科書
展開	3 グループ別に発表を行う。 4 質疑応答をする。	40分 グループ	・四つのグループに発表をさせる。(発表側) ・発表時間は準備から片付けまで含めて8分以内。 ・声は大きくはきはきと出させる。(聞く側) ・発表準備の間に、発表に対しての質問や意見をまとめさせる。 ・質問内容を確認し、発表グループに回答させる。 ・作品や作家について、美術史における位置付けを確認させる。	プロジェクタ パソコン LAN ケーブル CD-R 発表用プリント
終末	5 次時の予告を聞く。	4分 一斉	・次回の発表するグループに、発表方法で参考になった箇所を述べさせる。 ・次時の学習内容について、プロジェクタを利用して説明する。	プロジェクタ パソコン LAN ケーブル

(4) 本時の評価

- ① 西欧研修旅行の体験を視聴覚機器を活用しながら順序立てて分かりやすく説明することができたか。
- ② 体験談の発表を通して、ルネサンス以降の美術作品の美しさやよさをつかみ、美的感覚や造形性を認識することができたか。
- ③ 発表者の説明の内容を理解し、自分なりに発表の要点をつかむことができたか。